

# 広島市立安佐市民病院広報誌

—第32号—

〒731-0293 広島市安佐北区可部南二丁目 1-1  
TEL : 082-815-5211 (代)  
<http://www.asa-hosp.city.hiroshima.jp>



平成24年  
初頭に当たって



広島市立安佐市民病院 副院長  
山本 恭子

明けましておめでとございます。勇壮に天に昇る龍のように、大空を翔る風のように健やかにたくましく皆様にとってよい年でありませうお祈り申し上げます。

平成二十年十月から「地域医療支援病院」、平成二十二年四月にはかねてから念願であった「がん診療連携拠点病院」の認定を受け事業を行っているところです。

平成二十三年二月には外来化学療法室が一階の中央処置室から二階に移転し、独立した部屋として、安全面や感染面、プライバシーを考慮した療養環境となり安心して治療・看護を受けていただくことができるようになりました。しかしまだ十分とは言えず、今年、治療を受けられる患者さまの動線が最小限となるように診察室や採血室が整備される予定です。

平成二十三年六月一日より、がん患者サロン「すずらん」を開設しています。すずらんの花言葉には「幸せの再来」があり、心の平穏を得て幸せが再び訪れますようにとの願いを込めて名称に選ばれました。サロンには、がんに関する三百冊の図書やDVD二十枚、パンフレットなどを整備しインターネットができるパソコンを一台設置しています。また、



患者会やおしゃべり会を計画的に実施しています。患者会では、医師や認定看護師、薬剤師等によるミニレクチャーの提供、おしゃべり会では看護師や医療ソーシャルワーカーによる相談や同じ病気の方や家族の方々の情報交換の場としてご要望にお応えできるよう体制を整備してまいりました。

ここで、地域の基幹病院としての看護部の取り組みを一部紹介します。二〇〇六年十月に「地域感染ネットワーク」を立ち上げ月に九十分／一回、感染管理認定看護師を講師として研修会を開催しております。地域の各施設の感染対策の知識・技術の向上を図り、施設における感染管理の実践を推進することを目的として、二〇〇九年度からは、ネットワーク施設への巡視を開始しております。巡視することにより、各施設の実践での問題点を共有しながら改善されているようです。また、翌年の二〇〇七年十月より顔の見える「看護連携会議」を立ち上げ、地域の病院・施設・訪問看護ステーション等との交流をとおして情報交換を行っております。看護専門職として知識、技術の向上に努め、患者・家族が安心して療養生活を継続していかれるよう看護職のネットワークを推進し、切れ目のない看護の提供ができるよう地域全体の看護の質の向上を目指し取り組んでいます。これらの取り組みは、地域における看護のレベルアップを図り「チーム医療のキーパーソン」としての役割が期待されている事を十分認識し、時代の求める看護職の役割を果たしていきたいという一心からです。

当院は、地域の基幹病院として皆様に信頼され、愛される病院を目指して今後とも精一杯努力する所存でございます。

## 【病院機能評価】



### 安佐市民病院の理念と基本方針

#### 理念

- ・愛と誠の精神をもって医療を提供します。
- ・地域の基幹病院として高度の医療・ケアを行います。

#### 基本方針

1. 患者さまの立場を尊重し、理解と納得 にもとづいた医療を行います。
2. 安全な医療と快適な療養環境の提供に努めます。
3. 地域と連携し、地域医療、救急医療、トータルケアの水準の向上に努めます。
4. 最新の医療にとりくみ、医療・医学の進歩に貢献します。
5. より良い医療サービス提供のため、健全な病院運営に努めます。

# 精神科の紹介



精神科副部長  
日笠 哲



今年の4月に着任いたしました日笠と申します。安佐市民病院の神経科・精神科は、初代森岡壯充（現在、森岡神経内科院長）部長が、精神疾患のみならず当時は種々の神経疾患の治療も積極的に行う診療体制を築くことにご尽力され、当科の礎を作られました。その後長田昌士主任部長（現在、おさだメンタルクリニック院長）が引き継ぎ、うつ病や神経症、心身症から認知症に至るまで幅広い精神疾患を対象とした診療の充実にご尽力された後、平成23年4月より私が当科の責任者として引き継がせて頂きました。

改めて当精神科の総合病院ならではの特徴を紹介させていただくと、

- ① 他の診療科と連携した診療体制があること
- ② 各疾患の多面的診断評価をしながら診断や治療を行うこと
- ③ 電気けいれん療法など総合病院に特化した治療が可能であること、であります。

従来どおり、うつ病、躁うつ病等の気分障害、神経症（不安障害、パニック障害など）、認知症、統合失調症、ストレス関連障害など種々の精神疾患の治療については、外来（一部は入院治療応需も可）治療を中心に対応させていただきます。

また、平成22年に当院が地域がん診療拠点病院に指定されたことも大きな追い風となり、多くのがん患者さんやそのご家族の抱える精神医学的問題や心理・社会的サポートのため、緩和ケアチームの構成メンバーとして活動もしている最中です。

平成23年度7月には、若い活動的なスタッフを迎え入れました。新しいメンバーで地域の精神医療の充実の一翼を担い、地域の皆様のニーズに少しでも応えられるよう尽力して参りたいと存じます。

## 「食・栄養」を通して患者様を笑顔にしたい!



栄養室主任（管理栄養士）  
中佐 庸子

「病院の管理栄養士となり、患者様のお役に立てる仕事がしたい。」と、学生の頃から思っていました。その気持ちは今も変わっていません。

私が安佐市民病院に採用された頃、病院栄養士の仕事は調理作業が主体で、調理場の中で駆け回っていました。今は、病院給食業務については委託となり、委託会社さんの力を借りながら、「患者様のニーズに合った、おいしく、治療に役立つ食事作り」に努力しています。

現在の主な仕事は、「入院患者様の栄養管理」です。「食事は食べられますか?」「栄養剤の注入方法はどれくらいいい?」チーム医療の一員として医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、言語聴覚士などの病院スタッフと協力しながら、どのようにして栄養状態を回復していただいたらいいか検討しています。患者様に適切な栄養管理を行うことは、効果的な治療に役立ちます。それによって患者様が早期に回復されることを目指しています。

また、もう1つの大きな仕事は「栄養相談」です。「あの栄養士さんに会って、またお話をしたい」と思っていただけの栄養相談が理想です。しかし、患者様のお話を伺う力が不十分なため、患者様に無理を言ってしまい、独りよがりの栄養相談になってしまうことがあります。毎日の食事を変えていくことは大変なことです。さらにそれは、患者様自身にしか実行できないことです。「理想的な食事を知っていただき、その中からできそうなことを見つけ、一歩を踏み出していただく。」そのお手伝いができればと願っています。

「食・栄養」を通して患者様に笑顔になっていただくこと。それが病院栄養士の喜びです。



# 「子宮頸がんワクチン」って何?

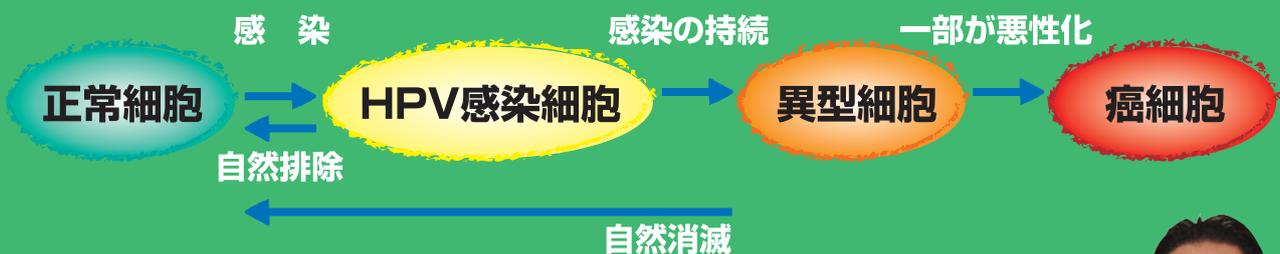
最近ニュースや新聞で子宮頸がんワクチンについての話題が報道されていますが、この子宮頸がんワクチンってみなさんご存知ですか?

一般に「がん」は検診で早期に発見されれば治ることが期待されます。子宮頸がんも、細胞診で前がん病変である異形成を発見し、早期に対応することで治癒させることが重要ですが、最近では発生そのものを予防する薬が登場し注目を集めています。その薬が「子宮頸がんワクチン」と呼ばれています。

子宮頸がんの発生にはヒトパピローマウイルス (HPV) とよばれる病原体が大きく関与しています。HPVは性交渉を介して多くの女性が一生のうち何度かは感染するウイルスで、感染が起きても必ず子宮頸がんになるという訳ではありません。多くの場合、HPVに感染しても症状は無く、体の免疫作用によってウイルスは排除されてしまいます。ただ、ごく一部の人で感染した状態が持続し、前がん状態 (異形成) が発生し、数年から数十年の時間をかけてゆっくりと子宮頸がんへと進行して行きます。

子宮頸がんワクチンはこのHPV感染を予防するもので、その結果として子宮頸がんそのものも予防できると考えられています。現在使用されているワクチンはHPVのうち最もがんの発生頻度が高い16型と18型を標的としており、3回の接種で血清抗体価 (ウイルスをやっつける能力) を高めて感染を防止します。予防効果は6年以上にわたることが確認されており、少なくとも20年間は自然感染で得られる抗体価を上回る血清抗体価が維持されると報告されています。性交開始以前の早い年齢でワクチン接種を受ければ、将来子宮頸がんにならないことが期待できます。現在のところ接種が最も推奨されるのは11歳から14歳の女性で、30歳代までは接種が推奨されます。40歳以上の方では希望により接種を行います。

子宮頸がんワクチンによって将来子宮頸がんは激減するかもしれないと考えられていますが、残念ながら現在使用されているワクチンでは世の中から子宮頸がんが完全に無くなるわけではありません。その理由は発がんに関与するHPVは現在15種類ほど知られており、ワクチンでこれら全てのHPV感染を防げる訳ではないためです。予防と同様にこれまで通りやっぱり子宮がん検診も重要です。



産婦人科部長  
谷本 博利



## チーム医療の紹介 緩和ケアチーム



緩和ケア認定看護師  
伊藤 美幸

当院の緩和ケアチームについて紹介させていただきます。

緩和ケアという言葉聞き、どのようなものかと、お考えでしょうか。がんを診断を受けた時から、患者様が自分らしく生きるために、体と心の苦痛を和らげる治療やケアのことを緩和ケアと言っています。私たちは、がん患者様が治療を行って行く中で、より良い緩和ケアを提供するために、医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、臨床心理士などの多くのメンバーでチーム医療をおこなっています。

緩和ケアチームは、2004年に発足し、2008年からは、緩和ケアチーム介入依頼システムを導入し、各部署で対応の難しいケースに対して、チームとして介入を行ってきました。

また、各部署において、緩和ケアを必要とする患者様に対し、速やかに対応できるように同年、緩和ケアリンクナース（各部署で連携・調整）が設置され、緩和ケアチームの一員として、活動をしています。

活動内容としては、

1. 月1回の緩和ケア定例委員会を行っています。チーム介入したケースの事例検討会を行い、情報の共有を図りながら、その患者様にとって良い治療、ケアは何かとういことを話し合っています。
2. 院内職員、院外医療従事者を対象に緩和ケア研修会を開催しています。昨年度は、「医療における緩和ケアの重要性と実際」「みとりにける医療者のコミュニケーションスキルを学ぼう」などのタイトルで研修会を6回開催し、毎回約80～100人程度の参加がありました。少しずつではありますが、緩和ケアに関する知識や技術の向上に努めています。
3. 緩和ケアチームの新しい取り組みとして、今年度より、「緩和ケアチーム病棟ラウンド」を始め週1回病棟で医師、看護師・薬剤師などの多くのメンバーで、カンファレンスを行っています。痛みや息苦しさ、吐き気などの身体的な症状や、不安、不眠、うつ状態などの精神的な症状症などのコントロールが困難なケースに対して、チームよりアドバイスを行っています。

昨年4月からは、がん診療拠点病院に指定を受け、手術や化学療法、放射線治療など専門的ながん医療の提供と共に、緩和医療の充実が求められています。このような状況の中で、わたしたち緩和ケアチームとは、患者様、ご家族の苦痛な症状や心配事などを早期に解決し、QOL（生活の質）の向上に努めながら、より良い療養生活が送れるよう、サポートしていきたいと思えます。



## 助産外来の開設について



当院では助産師の専門性を活かし、妊婦さんやその御家族を対象に、快適なマタニティライフを送っていただく為に、**助産外来**を開設することになりました。医師の許可のもと、助産師が健診と保健指導を受け持ちます。

妊娠中の不安や心配が少しでも軽減できるよう、サポートさせていただきます。

### 助産外来とは

正常な妊娠経過をたどる妊婦さんを対象に、医師と協力しながら、助産師が妊婦健診を行う外来のことです。妊婦さんとその御家族が安心して過ごしていただけるように、当院の健診予定に従って妊娠期からお産まで継続した支援を目的としています。

当院では妊娠24～35週の間の2回を助産師が妊婦検診を行います。

**助産外来のお知らせ**

妊娠の経過は人それぞれです。  
自分らしいお産ができるように  
助産師と一緒に快適なマタニティライフを  
過ごしてみませんか？

**2月から助産外来が始まります**

毎週 月曜日・水曜日 14:00～16:00  
1人30分～40分の予約制です

ご希望される方は、産婦人科外来スタッフにおたずね下さい

ゆっくり相談がうけられます。

赤ちゃんの成長と  
心音の確認をします。

お産の為の準備やお乳の  
ケアがうけられます。

広島市立安佐市民病院 産婦人科外来

# こどもの発熱について 知っておこう



小児科主任部長  
和合 正邦

## こどもの平熱ってどのくらい?

個人によって平熱の違いがありますが、



赤ちゃん(0才)  
36.3~37.4℃



幼児(1~5才)  
36.5~37.4℃



小・中学生  
36.5~37.3℃

※赤ちゃんや幼児は厚着や暖かい部屋でも体温が高くなります。また、1日のうちでも変動することがあります。

## こんな時は 夜間でも病院へ!!

- ぐったりして意識がもうろうとしている。はっきり答えない。
- 12時間以上おしっこが出ていない。出ても量が少しだけ。
- 生後3ヶ月未満の赤ちゃんが38℃以上ある。
- 初めてけいれんをおこした。
- 発熱と嘔吐が続くとき。

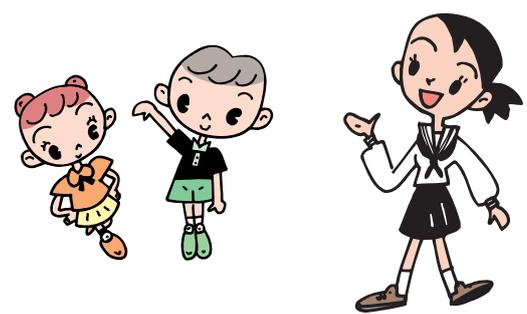


## 熱が出たときのおうちでの 看護のポイント

- ★元気があって水分がとれるようなら熱さましを使わずに様子を見ましょう。(赤ちゃんがキゲンがよくてミルクや母乳を飲むようなら)
- ★水分はこまめにあげましょう。水分がしっかりとれれば1日食べられなくても大丈夫です。
- ★38.5℃以上で水分をとらなくなったり、眠りが浅くキゲンが悪いときには熱さましを使いましょう。(1度使ったら次は6時間あけて使いましょう)

## 熱さましについて

熱さましは病気を治す薬ではありません。一時的に熱を抑えて睡眠や水分をとりやすくすることが目的です。一気に平熱まで下げるものではなく、1℃程度下がれば良いと考えましょう。



## 熱さましを効果的に使うコツ

寒気を感じているときは熱が上がっているときなので薬を使ってもあまり下がりません。熱が上がりがきって、暑さを感じるときに使うと効果的です。(赤ちゃんの顔色が悪く手足が冷たい時よりも顔が赤く手足も温かいときに)

### ※手持ちの熱さましを使うときの注意

おくすりはお子さんの体重で量が決まっています。手持ちの薬が最近もらったもので、体重が変わっていなければ使ってもOK! 古いもので、もらったときと体重が変わっていたら使うのはやめましょう



# がん患者さんの力になりたい!



がん化学療法看護認定看護師 佐々木 恵子  
 緩和ケア認定看護師 小原 由里  
 皮膚・排泄ケア認定看護師 伊藤 美幸  
 中野真寿美  
 神田光太郎

「がん」という病名が与えるイメージから、多くの不安を抱きながら病院へ来られる患者さまやご家族は多いと思います。

当院には「がんと診断された時」や「今後の治療方針の説明を受ける時」などに不安や相談がありましたら、医師の説明に同席させて頂き、病気や治療内容を理解され、納得の上で治療に臨めるよう様々な支援をさせて頂きたく専門の認定看護師がいます。化学療法の副作用や心身の痛みの緩和など専門的なケアもさせて頂きます。

また、がん患者サロン『すずらん』でのおしゃべり会やミニ勉強会などの催しに私たちも参加しています。

是非、私どもをご活用下さい。

がん患者サロン「すずらん」  
開催予定  
毎月第3木曜日 14:00~15:00

開催日	内容	担当
1月19日	大腸がんについて	腫瘍内科部長 北口聡一
2月16日	おしゃべり会	看護師が同席
3月15日	胃がんについて	外科主任部長 平林直樹

その他「すずらん」では、研修会、おしゃべり会以外にも各担当者によるミニサロンも開始しました。

毎月第1木曜日: 家族の日(看護師、MSW)  
 毎月第2木曜日: 薬の日(薬剤師)  
 毎月第4木曜日: 栄養の日(栄養士)

## お知らせ

3/22 診察開始

朝まで待てない、今すぐ診てほしい...  
そんな突然のトラブルに!

# 安佐医師会 可部夜間 急病センター

内科 受付: 19:00~22:30  
月~金

15歳以上の大人を対象に  
内科の患者を診察します。

原則として応急処置のみとし、  
お薬は1日分をお出しします。

受付後は、翌日から  
かかりつけ医を受診してください。

診療案内: 内科(15歳以上) 月~金曜日(19:30~23:00) 受付: 19:00~22:30 電話: 2-0889, 416, 0299(受付時間内) 安佐医師会 会員医師

**安佐医師会  
可部夜間急病センター (内科)**  
TEL.082-814-9910  
広島市安佐北区可部4丁目11-28 (駐車場15台)

<http://www.urban.ne.jp/home/asa14/>

## 皆さまの 声

### 投書1

入院の受付入口が解り難い!!きちんと入口をはっきり誰にでも解るようにして欲しい。不親切。

### 皆さまの声の対応

- ご指摘ありがとうございます。
1. 正面玄関の自動ドアの表示に気付かず院内へ入られた患者様にお知らせするため、正面玄関を入った所の柱(2箇所)に案内の掲示をいたします。
  2. 守衛室入口の2箇所の案内表示はそれぞれ西側や南側からは見えますが、正面玄関側からは見えないので、正面玄関から見える位置に案内の掲示をいたします。

医事担当課長 道本 健司

### 投書2

ゴミ箱が中央にしかないので、診察券を通す付近にももう一ヶ所設置してほしい。

### 皆さまの声の対応

ごみ箱に関しましては病院内感染管理対策の観点から最小限の設置とさせて頂いております。南館1階売店前にもゴミ箱を設置しておりますのでそちらをご利用いただきますようお願い申し上げます。

庶務係長・主幹 面田 尚志